

### 第3回網走川河川整備計画検討会 議事要旨

日時：平成26年3月11日(火) 13:00～15:00

場所：網走市市民会館 3階 大会議室

事務局から、これまでの検討会等の実施状況及び網走川水系河川整備計画の目標と整備内容について説明を行い、以下のような議論が行われた。

#### ■これまでの検討会等の実施状況について

委員：前回の検討会からの間に、関係住民への意見照会等を行っているのか確認したい。行っていた場合には、整備内容に活かしたことがあれば教えてほしい。

委員：前回の検討会からの間の検討内容等について教えてほしい。

事務局：関係住民への意見照会等は、河川整備計画の原案を作成してからになり、現在は原案を作成中の段階なので行ってない。前回の検討会からの間に、特に網走湖周辺の治水対策等について、関係自治体等の意見を聴きながら、慎重に時間をかけて検討を行っていた。また、湖上流の河道掘削方法についても検討を行っていた。

#### ■網走川水系河川整備計画の目標と整備内容について

委員：多様性を保つために、高水敷を全て採草地にするのではなくて、部分的あるいは疎らでも良いので河畔林を残すことを考えてほしい。

委員：網走湖に近い箇所、ドロノキとタチヤナギを挿し木し、鳥などが移動できるようにしている。

委員：下流域の河道掘削は、高水敷掘削を行うことで、低水路を保全することだが、掘削箇所の冠水は、融雪出水程度では冠水しない高さになっているのか。

事務局：平均年最大流量程度の流量で冠水すると想定しており、融雪程度では冠水しないと想定される。

委員：高水敷の冠水により土砂が堆積したときの維持管理も考えておく必要がある。

委員：高水敷の採草地で肥料を使用すると、網走湖の富栄養化が懸念される。農家の方への占用許可の際は、堆肥の使用制限について盛り込むようにしてほしい。

委員：大腸菌については、完熟堆肥を使用することで観測されなくなるが、窒素、リン、BODが上昇してしまう。洪水で冠水しなくても、雨が降って浸透して流出することで濃度が上昇する可能性が高い。採草地として管理して頂けることは、良いシステムだと思うが、網走川の水質、ブランド力を高める意味でも、一緒に川のブランドを作っていくという形にできるとすばらしいと思う。

委員：別海町の方で、10m幅のし尿ろ過林を設置している。10m幅の河畔林が理想だが、河岸に樹林を1列でもいいから残すということに期待したいと思っている。

委員：下流域だけに負担を押しつけるのではなく、中流域や上流域も含めた流域全体での対策も含めた計画を立てるべきだという議論があったと思う。具体的にはどういうところを盛り込んだのか確認したい。

事務局：河道掘削案としているが、遊水地で対策する案等も検討している。遊水地を整備する場合、大規模に農地が潰れてしまい地域の産業への影響が大きい。事業費も河道掘削の約5倍かかることから難しいと考えている。施設による流域対策は難しいが、地域で実施されている植樹活動等の、流域の保水力を高める取り組みには、引き続き協力していく。

委員：現状ではいろいろと難しい問題があるが、総合的な流域対策も盛り込んだ計画内容にすることが重要だと思う。

委員：総合的な流域対策も重要な考え方なので、それも踏まえて整備計画を作成してほしい。ただし、費用対効果の問題や、河川管理者が出来ないこともあることから、他機関に協力を要請するなど、流域対策の考え方も示してほしい。

委員：新潟県の信濃川では、水田に貯留した事例があり、収穫ゼロになったところを県が補償している。生命を守ることと産業活動のところで選択をして、一定のコスト負担もするという時代の流れもあり、このことは非常に重要な意義をもつ気がする。

委員：河川管理者の範疇にとどまらず、協力を仰ぐところには積極的に仰ぐなどということも検討してほしい。

委員：河川協力団体は良い制度だと思う。網走地区で活動してくれる団体はいるのか。

事務局：残念ながら網走川については応募がなかった。

委員：開発局からも働きかけて、河川協力団体として活動してくれる団体が出てくるようにしてほしい。

委員：河川情報の収集・提供について、住民からの情報の収集システムが少し不足していると感じた。河川協力団体も非常に重要な情報源になると思うので、双方向の関係を築くためにも考慮してほしい。小学生を対象とした災害図上訓練も非常に貴重なので、防災だけでは無く自然環境の保全などの実施も検討してほしい。

委員：網走湖周辺はオジロワシの繁殖域なので、18頁の湖沼域にオジロワシの繁殖地等と追記してほしい。

委員：32頁の水位標について、赤色と黄色に色分けされていて、危険を知らせるための色分けになっているのだが、ご存じない方が多いので、もう少し啓発してほしい。

委員：危機管理体制に関して、河川の水位がインターネットで見られるようになっており、地域としても活用でき良いシステムだと思う。ただホームページを見なければ分からないので、防災メールで行政側から知らせるという方法も非常に有効である。

委員：もう一度確認だが、河道掘削を選択した理由は何か。

事務局：遊水地での対策は、地域の産業への影響が大きいことと、河道掘削と比較して事業費が大変大きくなるということで無理だと考えている。堤防を堤内側に移設する案も検討したが、農地が潰れる面積が大きく、既に設置されている構造物の改築も必要となり、事業費が大変大きくなる。堤防を嵩上げする案も検討したが、内水被害が発生しやすくなり、既に設置されている構造物の改築も必要となり、事業費が大変大きくなる。比較検討の結果、河道掘削案が地域への影響や経済性の面などから、最も有利だった。

委員：全てを遊水地で受け持つのは非常に事業費がかかるということであれば、中流域に遊水機能を持つような場所を少しでも作って、中流域でも流量分担することが重要だと考えている。将来、河川周辺の土地利用状況も変化する可能性があるかもしれない。現状では難しいかもしれないが、遊水機能を保持できる土地の確保に努めていくことが大事ではないか。下流に一方的に流量を負担させるような内容には問題がある。

事務局：今回の河道掘削では高水敷を掘削することとしており、河道内の平均流速は現状と河道掘削後において、ほとんど変化がない。網走湖に流入する水の量の時間的な変化は現状と比較してほとんどない。そういった面からも下流に負担をかけないように工夫をしている。網走湖の洪水時の特徴として、上流の河川水位が下がりきってから網走湖水位がピークになる。河川からのピーク流入量よりも流域の総降雨量に影響が大きい。それに加え、今回の河道掘削の結果、流速に変化がなく、網走湖への流入量にも変化がないことを確認しており、下流に負担をかけているものではない。

委員：上流域での曲がった河道の直線化となると、下流に負担を分担させることになるということも考えられるが、今回は下流の河道掘削なので少し違う。流域の総合的な対策、雨水浸透などは、集中豪雨等が増加しているので、今後必要になってくると思うので、できれば整備計画に記載してほしい。

委員：一気に流下させるのではなく、ゆっくり流下させるような仕組みが大事。

委員：美幌川合流点の下流区間では、河道掘削時に直線部分に瀬と淵をつくり蛇行させる努力をしている。現状の狭い河道よりは、流れが少し遅くなると思う。

【中斷】東日本大震災により犠牲となられた方々に深い哀悼の意を表し1分間の黙禱

委員：油の流出事故は、環境や生物に与える影響が大きい。油流出事故が起きた場合、調査はどこが責任を持って行っているのか。事故原因をきっちりと究明して、再発しないように対策することが重要だと思う。

事務局：自治体と一緒に調査して、流入経路と発生源の調査を行い、発生源が特定できた場合には、流出させた方に対策費用を負担して貰っている。ただし、発生源がわからずに調査が終わっている場合も多い。なお、冬期は油の流出事故が多いので、自治体の広報紙で注意喚起を行っている。

委員：本日は、河道掘削の考え方、総合的な治水の流域対策、災害の伝達、河川協力団体などの話が出た。本日の議論を基にして整備計画原案を事務局で作成してほしい。

以 上